

団体名・グループ名

愛知県岡崎市立鳥川小学校

審査委員の評価のポイント

全校児童8名と地元の「鳥川ホタル保存会」が協力して、ホタルの保護活動と水環境の保全活動を積極的に推進している。「ホタルの里の山歩きコース」整備や、様々な集会で活動報告を通して、水環境を守るためには森林保全がかかせないことを広く伝えているなど、森林と川、ホタルの関係に着目し、広い視野にわたった活動の一つ一つに込められた熱意が高く評価された。

活動の場所 ・ 鳥川小学校 ・ 鳥川町内を流れる鳥川と大原川 ・ 鳥川町を取り囲む山々	活動したこどもの人数 8 人
	活動したこどもの学年 小学2、3、5、6年生
活動継続年数 14 年	主な受賞歴 なし

活動グループ（学校・団体）の紹介、活動頻度

鳥川小学校は全校児童8名（平成20年度）の極小規模校である。鳥川町は昔からゲンジボタルの里として有名であったが、高度経済成長期に激減をした。それを受けて平成6年に学区全戸で組織する「鳥川ホタル保存会」を立ち上げ、鳥川小学校の児童も積極的に地域の方々と協力し、ホタルの保護活動を進めてきた。子どもたちは日常的な活動として、カワニナやホタルの幼虫の飼育、川の水質検査などを行い、ホタルのシーズンにはホタルの数調べ、それ以外のシーズンには川の清掃、川岸の雑木伐採、人工林の調査と間伐体験、「ホタルの里の山歩きコース」の整備などを行っている。また、全国ホタル研究会、愛知ホタルの会、矢作川沿岸水質保全対策協議会などの団体の集会で活動報告を行ってきた。

活動の概要（活動の経緯も含めてご記入下さい）

『鳥川小学校全校児童8名と地元のホタル保存会が協力して、水環境の保全活動を積極的に推進していること』が評価され、平成20年6月、鳥川町の湧水が「鳥川ホタルの里湧水群」として環境省の「平成の名水百選」に選定された。鳥川の環境保全活動の特徴は、地元を流れる鳥川のゲンジボタルを守り育てることと、水源となる山に注目し、山歩きコースの整備を契機として、間伐などの森林保全活動に取り組みを進めている点にある。20年度は、8月2日（土）に岡崎市環境部主催の「第1回乙川サミット」で鳥川小全児童による基調報告をし、水環境を守るためには森林保全がかかせないことなどを訴えた。また、翌3日には、鳥川小とその周辺を会場に、「森の健康診断（朝日モリコロ山学校）」が開かれ、そこでも環境保全活動を県内外の参加者に啓発することができた。一時期激減していたゲンジボタルも1000匹以上が飛翔するまでに復活してきた。子どもたちは大変意欲的に活動を展開している。

団体名・グループ名

愛知県岡崎市^{としかわ}鳥川小学校

活動の場所（様子や環境など）

鳥川小学校
鳥川町内を流れる鳥川と大原川
鳥川町を取り囲む山々

タイトル

ふるさとを愛し、守り育てる「鳥川ホタルの里山活動」
～地域と協力に行うホタル保護活動・山歩きコースの整備～

1:はじめに

ぼくたちの自慢は鳥川を飛び交うたくさんのゲンジボタルです。また昨年の6月には、鳥川の湧き水が環境省の「平成の名水百選」に「鳥川ホタルの里湧水君」名義として選ばれました。今回の選定には「きれいな水がある場所」というだけでなく、地域住民による



主体的かつ継続的な保全活動が行われている場所」という条件があったそうです。鳥川の湧き水がそういう理由で選んでもらえて本当にうれしかったです。

鳥川町では、ぼくたち鳥川小学校の全校児童8名が中心となり、地域のホタル保存会の方々も協力してくださって、水と環境の保全活動を行っています。ぼくたちがこれまでにどんな取り組みをしてきたのかについて紹介します。



平成17年度「全国ホタル研究大会」が西尾市で開催され、ぼくたちは全国から集まった皆さんの前で発表しました。鳥川小の活動を紹介した絵本『ホタルの光る川』が発表会の直前に出版され、会場での販売も行いました。

平成18年度。この年は「矢作川 沿岸水質保全対策協議会」からの依頼があり、名古屋まで出かけて行って発表しました。この会場には第二東名の工事関係者もみえて、子どもたちがこんなにかんがっているのに、工事の景況でホタルが減ってしまったら大変。絶対にそんなことにならないようにします。との力強い言葉をいただきました。

平成19年度。今度は愛知ホタルの会からの依頼がありました。瀬戸の会場に集まった皆さんからはたくさんの質問が出て、ぼくたちの活動が多くの方から注目されていることが分かりました。そして、「スタピカ」と

いうテレビ番組の収録がありました。お笑いタレント「ギョウ」の木公本さん・西川さんが鳥川小学校に来てくださり、朝から日没まで丸一日かけて、番組の収録を行いました。



レギュラーの二人と給食を食べたり、いっしょにサッカーをしたりして、とても思い出に残る一日になりました。「全校児童9名で「ホタルの保護活動力をかまはっている超学校(おい学校)」ということで全国に放送していただきました。

今年度平成20年6月28日には矢作川水系森林ボランティア協議会の皆さんといっしょに学校の前の山で「森林の健康診断」を行いました。ぼくたちが言っていた土壌戸斤は、100㎡あたり15本ぐらいがちょうどいい土壌戸斤に、なんと35本も木植わっていました。



講師のニワケンさんが「ここは超超込み過ぎだから20本も切らないといけない。」と言ってみえたので、びっくりしました。

また、その日に『朝日モリコロ山 学校』の森林の健康診断を鳥川を会場に行いたい」という提案

かありました。「当日はモリゾーとキッコロが来る」と聞いて本当に来てくれたらうれしいなあと思いました。その後、言合はほとんど拍子に進み、いよいよ8月3日の当日を迎えました。当日は、最高気温が37℃というとても暑い日でしたが、遠くは北海道から小学生が集まり、ほくたちも仲間に入って森の健康診断を行いました。はしごに登ったり、木を伐り倒したりしました。いっぱい汗をかいて疲れたけど、とても楽しかったです。この日の



木美子は9月13日の卓月日新聞卓月刊に大きく取り上げていただきました。ほくたち^(の)活動がほんとでんと広がっていることが感じられて、とてもうれしかったです。

2: 学校でのホタル保護活動

それでは、小学校でのホタル保護活動について報告します。1・2年生は教室の水木曹で、カニサとホタルのムカ虫を育ててきました。夏に1ヶ月からえり、次の年の春になっても大きくなりきれなかった「2年子(にねんご)」と呼ばれる幼虫を飼っていました。

4年生教室でも「2年子」を育てていました。そして、その2年



子が2年たって本当に成虫になれるのかどうか、実馬食をしてみることにしました。上陸実馬食装置に2年子を入れました。その結果、なんと4月28日の夜に上陸しているところから発見されました。生まれてから2年の間、ずっと水木曹の中で生きてきたのに、ちゃんと4月の上陸日時期を忘れずにいた、ということは何か

とてもすごいことだと感じました。

そして6月16日、ついに成虫が1匹、立派に羽化したことが

石竜子 さん、さあ、全国ホタル研究会
会長の古田先生に報告したところ、
「2年子の羽化は全国でもほんの
数例しか確認されていない。小学校
で羽化に成功したのはもちろん全国
初だ」と言うと言っていたけました。
しまくたちしますこいこをした
人たなあと、とてもうれしかったです。



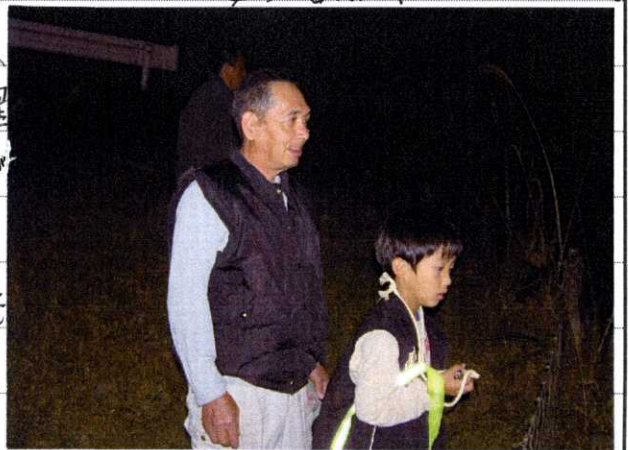
5・6年生は、学校の裏の元気池でカワニナとホタルの幼虫を
育ててきました。昨年度は、80匹ぐらいの幼虫が育てていました
が、今年度はなんと120匹ほどの幼虫を育てることができま
した。3月13日の放流式では、校長室前の水木曹で育てた幼虫
といっしょに放流をしました。



3. 地域の方といっしょに行ったホタル保護活動

地域の皆さんとも、いろいろな活動をしに行ってきました。
ホタルの飛ぶシーズンにはホタルの調査周りをしています。今
年も町内の各戸所で毎日午後8時からホタルの調査周りをしました。
今年度一番多かった6月16日の夜は、
鳥川全体で946匹のホタルが確認
されました。去年のこの日寺其月が
だいたい700匹ほどだったの、去
年より数が増えました。来年はも
っと増えるといいなと思います。

川のゴミ拾いも毎年行っていま



す。やはり下流に行くほどゴミが増えることが分かりました。川に落ちたゴミは、最後は海まで流れてしまいます。何とかゴミを減らしていきたいなあと思います。

学校の前の山もここ数年で何回かに分けて整備をしています。昨年度は、道路に覆いかぶさっている雑木を一気にきれいにしたのでとてもすっきりしました。



また、川岸の笹刈りも地域の方の協力のおかげでできました。川にかぶさっていた笹を一気にきれいにしました。そして、ホタルのふか虫がさなぎになりやすいように、文岸の土手には、新しい「さば土」と「赤土」をまきました。今まで以上にホタルが飛んでほしいと思います。

4:川を守るためには山を守らないといけない

「ホタルが住む川のこともっと詳しく矢口川」ということで、昨年の2月にはバスを使ってみんなで川探検を行いました。鳥川を出発し、まずは、鳥川が男川に合流する場所を見ました。続いて、男川と乙川の合流点。その次に、乙川が矢作川に合流するところを見ました。

今回の探検で、この場所が一番汚かったです。ゴミがいっぱいあったし、水もにごってる感じがした。空き缶や殺虫剤の缶、他にもビニールや自転車もありました。本当にゴミ置き場のような場所でした。



その後、矢作川を下り、河口まで行きました。鳥川はほんの数メートルの幅しかないけれど、河口では何百メートルもの幅になっていたのので、すごいなあと思いました。

そして、一色町公民館まで移動し、「矢作川をきれいにする会」

の方から、お話をうかがいました。副会長さんが「下流に住む私たちは、皆さんのところから流れてくる水を飲んでいるんです。だから、ゴミなどを糸色文すに流さないでください。」と何度も言っていました。

毎年3・4年生が川の水質検査をしました。結果を、教室でグラフに表したり、児童玄関に書いたりして、分かりやすくまとめてきました。鳥川の水質はほぼ安定しています。でも、川探検をしたことで、鳥川だけでなく、下流の矢作川、そして三河湾まで全体がもっときれいになるというなあじろ思ふようになりました。



水質検査の結果からは、鳥川の水が特に汚れてきているとは言えません。しかし、昔と比べると川の水量が明らかに減ってしまったという話を聞きました。学校の裏の小デノ沢も、昔はいつも水が流れている川でしたが、今では雨が降った後の数日しか流れません。これは山の保水力が落ちて、降った雨が山にとどまらず、すぐに流れ出てしまうことが原因のひとつのようです。



鳥川の山はスギやヒノキの人工林が多く、しかも、間伐や木支打ちなどの手入れが充分でないので、荒れが目立っています。手入れのしていない山に入るとても薄暗く、地表にはほとんど植物が生えていません。こうなると保水力が落ちて、大

雨が降るとびに洪水が起きますが、逆に雨が降らないと川の水が干涸れそうになります。

下草が生えないと水と栄養分をたっぷり含んだ腐葉土がどんどん減ってしまいます。昔よりホタルが減ってしまったことも、それが原因の一つではないか、と言われています。スポンジのよ

うにフカフカで、水と栄養分をたっぷり貯めてくれる腐葉土を守る事が大切だと聞きました。

森の健康診断をした時に、「土人形が見つかるのは腐葉土が流されている証拠」と聞きました。ついこの前、改めて森の健康診断をした場所では土人形を探してみました。そうしたら、いっぱい見つかりました。やはり鳥川の山も、見た目は緑がいはいて元気そうだけど、すぐに間伐を始めないといけないぐらい疲れているんだなあと感じました。

実は鳥川町では、5年ほど前から「ホタルの里の山歩きコース」の

整備を進めています。これは鳥川を取り囲む標高400m前後の山々を歩き、鳥川の自然や「海が見える景色」を楽しんでもらおうというものです。しかし、この山歩きコースの整備には隠れた本当の目的があります。



それは、多くの人に山に入ってもらって鳥川の山の現状を見てもらい、すぐにでも水源の山を守る活動力を始めないといけない、と知ってもらいたいということです。



ぼくたちは、これまでいろいろな取り組みをしてきました。昨年度は全校一人ひとりがホタルの鐘を作り、地域の皆さんといっしょに山に設置しました。電熱ペンを使って木板をこがし、鳥川に住む里鳥を描きました。そして、三本の金矢筋をぶら下げて、三つの音色

が楽しめるものになりました。これで、合計19ヶ戸にホタルの鐘を設置することができました。

この山歩きコースは鳥川以外の方からも注目されています。学校には山歩きコースについての問い合わせや感想などが寄せられ

ています。名古屋のある方からこんなメールをいただきました。
「先日音羽富士に登らせていただきました。県内を中心に登っている私にとっては、この大展望は驚きで、大げさかもしれませんが北アルプスの穂高を連想するほどでした。」

11月8日の土曜日には「ホタルの里の山歩きイベント」がありました。これまでに完成しているルートを4コースに分けて、参加者に女子きなコースを案内してもらって山歩きを楽しんでもらおうというイベントです。当日はあいにくの天気でしたが、100名近い方が集まり、山歩きを楽しんでいただきました。



5:おわりに

実は、ぼくたちの鳥川小学校は、来年度末で閉校校になってしまいます。これまで鳥川小学校では、「ゲンジボタルの保護活動」や「鳥川の自然を守る活動」を一生懸命に行ってきた。この先、学校がなくなってしまうと鳥川のボタルや自然がどうなるのか、とても心配しています。

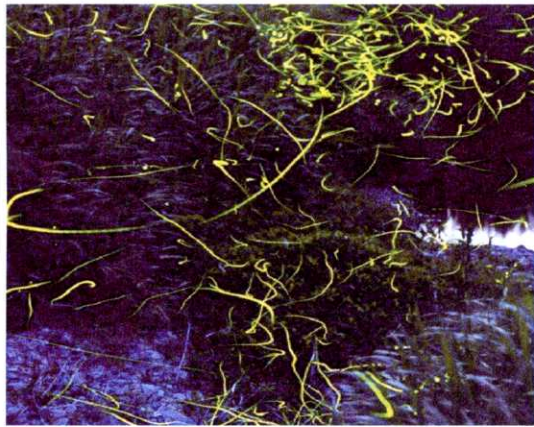


でも、学校がなくなっても、ぼくたちと鳥川が消えるわけではない。鳥川が未来もずっとホタルの飛び交う里山、名水が湧き出る里山として存在し続けられることをぼくたちは願っています。きっと、みんなで力を合わせれば、鳥川の豊かな自然を守っていくことができると思います。130年以上続いた鳥川小学校にとって最後の1年となる来年度も「鳥川ホタルの里山活動」をがんばっていきたいと思います。

(今泉圭貴(5年)、小野 敏哉(6年)
山口 友也(6年)、山口 直也(6年))

ホタルの里鳥川の みどころ 系紹介

ほくたちのふるさと鳥川にはすてきな場所がいっぱいあります。鳥川の
のみりよくをみなさんに系紹介します。



六月には千匹を超えるホタルが飛びます。遠くからたきんのお客さんが見に来ます。



鳥川を囲む山からは海がよく見えます。ホタルの鑑をたいて景色色を楽しんで下さい。



平成の名水百選に選ばれた湧き水が何ヶ所もあり、自由に水をくむことができます。



町内に石仏が百体以上あっています。詳しくは小学校のホームページを見てください。



写真のトヨトミ梨(梨の原生種)のような珍しい植もいはい残っています。4月



四十年ぶりに復活させたか茂式黒炭煎茶では地元の茶が毎年山炭を焼いています。



地元の方々がていねいに草刈をしてくださるので鳥川に来てもきれいです。



壁にはいにはホタルの絵が描いてある鳥川小学校、少人数でがんばっています。

みなさんもぜひ一度、鳥川に遊びに来てください。待っています！

鳥川ホタルの里の山歩き案内図

(2009.1.1 更新)



点線部分は「未整備区間」です。もし歩かれる場合は
各自の責任において充分に注意してお歩きください。

鳥川ホタルの里の山歩きコースについて
何か不明な点、ご意見などがありましたら
鳥川小学校 (0564-82-3027) にご連絡下さい。

鳥川町・鳥川ホタル保存会